

「防災庁への期待」災害応急対応力をどう強化するか（案）

主 催：一社）防災学術連携体

日 時：令和7年4月30日（水） 13時～17時30分頃

開 催：ZOOM webinar（定員500名）、Youtube（申込不要）、無料

趣旨（仮）

日本では気象災害が頻発化、激甚化するとともに、首都直下地震、南海トラフ巨大地震などの発生が危惧されている。政府では、防災立国を目指して「防災庁」を令和8年度中に設置する方向である。

防災に関わる63学協会の集まりである防災学術連携体は、防災庁にとって重要なことは何か、特に発災時の応急対応力強化に関して準備しておくべきことは何か、学术界からどのような貢献ができるかについて、分野を超えて考えたい。

本シンポジウムは次のキーワードをもとに、会員学協会から発表希望を募り、これらをもとに3つ程度のセッションを構成し、多様な分野の研究者の発表を通して、学協会の枠を超えた議論を深める。

発表募集 防災学術連携委員の皆様へ

○63学協会から発表を募集します。

3月24日（月）正午までに、エントリーして下さい。

1学協会、1発表を原則とします。

学会名、仮タイトル、発表者、概要を次のフォームに入力して下さい

タイトルは「25字以内」でお願いします

<https://ws.formzu.net/fgen/S70835156/>

キーワードの例

●災害応急対応の体制

- ・ 災害の要因・場所・規模・特徴に応じた国・県・市の災害対応マネジメント、法制度、救助・救援体制、各組織間の連携体制
- ・ 情報共有体制、防災DX
- ・ 海からの救助・救援体制の構築、孤立集落対応、半島問題、過疎地の問題、人口流出問題、多様な通信の確保、災害廃棄物

●災害関連死ゼロを目指して

- ・ 避難所等のトイレ、ベッド、水、食料、電源、医薬品、衛生用品、空調等の支援
- ・ 被災者への医療・福祉支援、高齢者・幼児等の健康管理
- ・ ライフラインの寸断、病院および施設の機能低下
- ・ 多様な避難形態と移動・搬送

●災害教訓の蓄積（アーカイブ）と活用

- ・ 災害による直接死や災害関連死の詳細記録のデータベースの構築、死亡原因の把握、災害対応への活用、「個人情報保護」の問題
- ・ 災害時の応急対応の詳細記録・振り返り・改善の蓄積、災害教訓のデータベース化、災害教訓の伝承、詳細な災害記録のポジティブな活用
- ・ マスメディアとの連携

●災害対応の専門人材の育成

- ・ 政府全体の災害対応マネジメントのプロ人材の育成、各省庁等におけるプロ人材の育成、災害応急対応のノウハウの蓄積、研修制度
- ・ 災害対応プロ人材の組織化、ネットワークの構築
- ・ OB、民間の専門人材の活躍推進
- ・ 防災意識社会の構築、リスクコミュニケーション

●研究成果の活用、イノベーション、事業継続計画（BCP）など

- ・ 防災 DX、地理情報システム、ロボット、人工衛星の活用など

プログラム構成（仮）

（学協会からの応募数・発表内容によりセッション1～3の構成と時間を設定する。）

- ・ 開会挨拶 13時 ～13時5分
- ・ 来賓挨拶 13時5分～13時10分
内閣府 防災担当 政策統括官 高橋謙司
- ・ 趣旨説明 13時10分～13時25分
- ・ セッション1 13時26分～14時41分
発表 数名（防災学術連携体の構成学会から発表募集）、質疑応答
- ・ セッション2 14時42分～15時57分
発表 数名、質疑応答
- ・ セッション3 15時58分～17時13分
発表 数名、質疑応答
- ・ 総括コメント 17時14分
防災庁設置準備アドバイザー会議主査 福和伸夫
- ・ 閉会挨拶 17時25分から17時30分

（シンポジウム実行委員会）

委員長 池内幸司

委員 小松利光 近藤久禎 酒井明子 田村和夫 永野正行
橋田俊彦 目黒公郎 米田雅子 和田章